

道徳授業研究協議会

H29. 6. 23

題材 2年「一りん車」

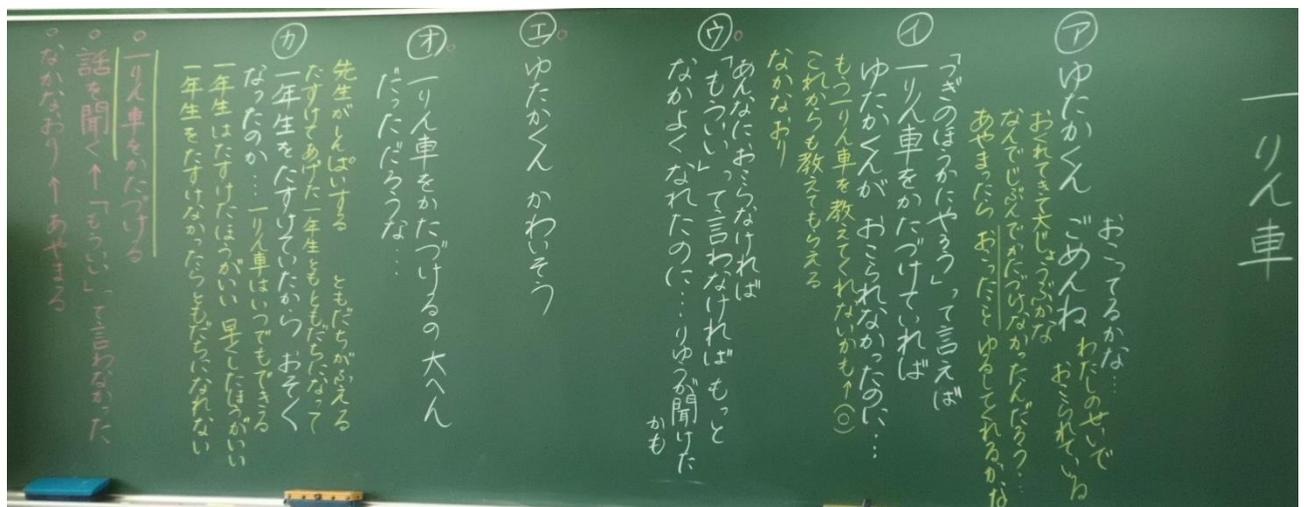
1. 授業内容

- ・ 普段、友達がいてよかったなあと思う場面を考えさせた。
- ・ 展開での中心発問は、『先生におくれたわけを話しているゆたかくんを見て、ようこさんはどう思ったでしょう』であった。児童が考えた意見を6つに分類し、それぞれの意見に対して、詳しく児童の思いを聞いていった。
- ・ 児童の意見を聞く中で、「どうしてそう思ったの」や、「何に対してそうだったのかな」など、切り返し発問をし、考えさせた。
- ・ 児童の発言の言葉が少し足りない場合は、「今の発言の意味はこういうことなんだね」と、教師が補足説明をした。聞いている他の児童にも分かりやすい配慮だった。
- ・ ようこさんの気持ちをみんなで十分に考えた後は、「みんながゆたかくんだったらどうする」と、相手の立場からも考えられるよう、投げかけた。
- ・ 話し合いのまとめとして、ようこさんはどうすればよかったかと、解決策を考えた。



2. 授業者の反省から

- ・ 『1年生を助けていて遅くなったのか...』という意見について、詳しく聞きすぎてしまい、時間がかかってしまった。
- ・ 本時の価値観にせまることができると考えていた意見、『一輪車を片付けていれば、ゆたかくんが怒られなかったのに』や、『もういいって言わなければ、もっと仲良くなれたのに』などに対して、あまり詳しく聞けず、深まらなかった。
- ・ 出た意見と同じ考えの児童がいなくても、この考えを深めたいという思いが教師にあれば、全体に投げかけて聞いていくべきだと思った。



3. 参観者より

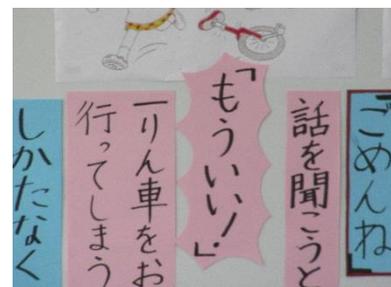
(1) 意見を発表させるとき

- ・ 言葉が少なく、児童の思いがうまく伝わらない時もあるので、発言の意図をしっかりと聞く話し合いが深まるきっかけをとらせることができると思う。
- ・ 時間配分を考えて、発表をさせないと、まとめの時間がなくなってしまうので、気をつけたい。

(2) 発表された意見を詳しく聞くとき

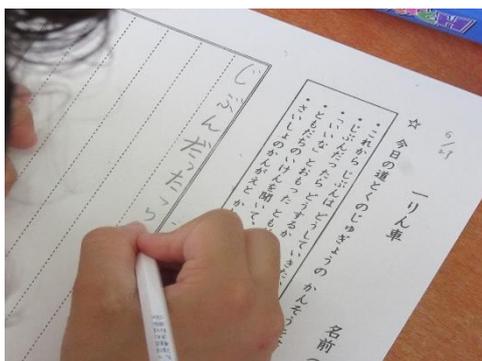
- ・ たくさんの児童が自分の意見を発表できるといい。→小グループなど、少ない人数で話し合う機会を増やして慣れさせるとよいのではないか。
- ・ 同じ考えの意見の児童がいない場合でも、深めるべき意見は、切り返し発問をして深めていく必要がある。
- ・ 下級生に対しての優しい気持ちが感じられる意見がたくさん出てきた。この気持ちは今後の日常生活につなげていけるとよい。

- ・ 登場人物が仲良くできる方法を考えるときは、自分事としてとらえられるようにもっていき、今年度の本校の取組である問題解決的な学習によりせまれた。また、自分事としてとらえられるきっかけをその時間の中で早目にもってくるるとよい。
『自分だったらどうするか』というところから始め、道徳的価値が深まるようにもっていけるとよい。



(3) まとめるとき

- ・ ワークシートに『自分だったら』という言葉を書いたことによって、何をかいてよいかわからない児童がほとんどいなかった。



- ・ 2年生は、この形のワークシートで書くことができるが、1年生にとっては難しいかもしれないので、今後、1年生ではどのような形にしていくのか、また、部会で話し合いたい。
- ・ 時間が少なくなってしまったので、板書のまとめが慌ただしくなってしまった。まとめ方はとてもよかったので、みんなでそれについて考えられるような時間があるとよかった。
- ・ 説話が実生活に基づいていたので、児童にとって自分事としてとらえやすかった。

(4) その他

- ・ 低学年の場合は、教師の言葉の補足がとても重要になるので、よく考えて補足していかなければいけない。
- ・ 授業のねらいにせまれた児童もいたが、教師の予測と違う1年生への優しさについて考える児童も多かった。その思いも大切にしながら、教師が意図したねらいにせまれるように、授業をすすめながら、その中で修正・組立をしていかななくてはならない。